



中学校(学年)における実践①(7月)

「私の四面鏡」(構成的グループエンカウンター)

○ 本時のねらい

肯定的な印象を伝え合うことで個々の自己肯定感を高め、より深い人間関係を築くためのきっかけにさせる。

○ 展開(50分)

学 習 活 動	教師のはたらきかけ	準備物
<p>1 ウォーミングアップをする。</p> <p>「あわせアドジャン」</p> <p>①生活グループ(4～5人組)をつくる。</p> <p>②指を、1本から5本まで5通りの中から選んで「アドジャン」の掛け声で出す。グループ全員が同じものを出せば成功となる。</p> <p><ルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で声を合わせて「アドジャン」と言う。 ・同じ数字(指の数)は続けて出せない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループのメンバーと気持ちを合わせて活動したから楽しく活動できたことを、生徒にフィードバックして、本時の活動につなげる。 	
<p>2 活動の内容や進め方を知る。</p> <p>「私の四面鏡」</p> <p>①ワークシートの[3]に、自分のよいところを書く。</p> <p>②ワークシート[1]にグループのメンバーの名前を記入し、その人に当てはまる項目を5つ選んで○を付ける。</p> <p>③ワークシート[2]に、自分に当てはまる項目を5つ選んで○を付ける。</p> <p>④グループで、互いに○を付けた項目を伝え合い、自分のワークシート[2]に記入する。</p> <p>⑤互いになぜその項目に○を付けたのかを伝え合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループは、生活グループで行うようにする。 ・グループのメンバーを大切な仲間として、真剣に考える時間にするのが大切であることを伝える。 ・どんな項目があるか読み上げ、項目について質問を受ける。 ・1人ずつ順番に伝えるようにする。 	<p>ワークシート[3]</p> <p>ワークシート[1]</p> <p>ワークシート[2]</p>

<p>3 シェアリングをする。</p> <p>(1) 個人で振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート[3]の2に、できあがった自分の四面鏡を見て感じたことや考えたことを記入する。 <p>(2) グループで振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート[3]の2に記入したことを基に、順に発表する。 <p>(3) 全体で振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート[3]の3に、自分のよいところを書く。 ワークシート[3]の4に、「私の四面鏡」を行った感想や、自分への気づきを記入する。 全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今の気持ちをそのまま書くように促す。 他の人の発表をじっくり聴くように声を掛ける。 学級の友達と互いのよさを伝え合うことで、自分でも気付かなかったことに気づき、自分に自信をもつことができるようにする。
--	--

《参考文献》

- ・ 國分 康孝監修 片野 智治編集 『エンカウンターで学級が変わる 中学校編』 1996年 図書文化社 pp.140-143

○ ワークシートより(ワークシート[3]の生徒の記述)

- ・自分で思っている所とは、だいたい同じ所もあれば、「そうなんだ」と思う所もあってびっくりした。自分がみんなからどう思われているのか、どう見られているのかが分かってよかったと思った。特に「しっかりしている」とかが多くて、そう思われているのならばごく嬉しかった。みんなのよいところも分かってよい学習だった。
- ・グループの人から教えてもらったとき、意外な項目ばかりで驚いた。だいたい同じようなのにかたまっていて、人から見た感じがどんなのか分かった。自分では思っていなかったところばかりで、驚きました。周りの人に○を付けてみると、友だちのよいところが改めて確認できたので、少し、友だちを深く知った感じになりました。
- ・みんなが「運動が得意そう」と思ってくれてたのは嬉しい。こんな活動はしたことがなくて、不思議な気持ちでしたが、みんなの意見を聞いて、とてもおもしろかったし、嬉しかったです。このような授業をまたやってほしい。

○ 実践を振り返って

【集団について】

「私の四面鏡」の活動前に自分のよいところを3つ書く場面では、ほとんどの生徒がなかなか書くことができなかつたため、「1つでもいいから書くように」と促したが、1つだけしか書けなかつた生徒も多く、32%の生徒が無回答だった。しかし、「私の四面鏡」の活動後に自分のよいところを3つ書く場面では、無回答の生徒は16%に減っていた。「私の四面鏡」の活動で、同じ班のメンバーからよいところに○をつけてもらった後だったため、自信をもって書くことができた生徒が増えたと思われる。ただし、自分のよいところについて16%の生徒が1つも書くことができなかったことから、互いのことを認め合う活動をメンバーを変えて継続して行う必要があると感じた。

【個人について】

- ・ Aは、「私の四面鏡」の活動前の自分のよいところの記入は、無回答だったが、活動後はできあがった「四面鏡」を見ながら、「冷静、静か、ひかえめ」と書いていた。また「よいところがあるんだと思った」と感想を書いていた。
- ・ Bは、自分のよいところの記入は、「私の四面鏡」の活動前、活動後の両方で無回答だったが、「自分が想像していた、他の人から思われていることとは違うものがあって、それを良いところだと思ってくれてうれしかった」と感想を書いていた。
- ・ Cは、「私の四面鏡」の活動前の自分のよいところの記入は、授業者から書くように促されても自分で書くことができず、それを見ていた同じ班の女子生徒が「私が書いてあげる」と言って書いた。そのことがあったためか、「私の四面鏡」の活動にも積極的に参加した。事後のアンケートには、「おもしろかった。何回もしたいくらい」と書いた。